



平成20年3月28日

各位

会社名 ダイソー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 佐藤 存
 コード番号 4046
 (東証・大証各第一部)
 問合せ先 常務取締役管理本部長
 今里 嘉彦
 (TEL 06-6110-1560)

新中期経営計画（2008年度～2010年度）について

当社グループは、創立100周年の2015年度に「経常利益100億円」を達成する長期経営目標「ターゲット100」を掲げております。今般「ターゲット100」の実現を目指して、新中期経営計画「GLOBAL GROWTH-10（略称：GG-10）」（2008年度～2010年度）を策定いたしました。

GLOBAL GROWTH-10

—革新・挑戦・飛躍—

連結業績目標：売上高1,000億円、経常利益60億円、ROA7.0%以上

1. 現中期経営計画「ADVANCE-08」の成果

現中期経営計画「ADVANCE-08」（2006年度～2008年度）は、「事業領域の拡大」をテーマに、コア事業の競争力強化、次世代コア事業の育成、低収益事業の再構築、世界四極体制の構築、ERP導入による経営効率の向上等の施策に取り組んだ結果、計画の最終年度の2008年度目標「経常利益45億円」を1年前倒しで達成できる見込みです。

	05年度実績	06年度実績	伸び率	07年度見込	伸び率
売上高(億円)	667	724	8.5%	780	7.7%
経常利益(億円)	32	37	15.6%	45	21.6%
ROA(%)	5.2	5.7	—	6.1	—

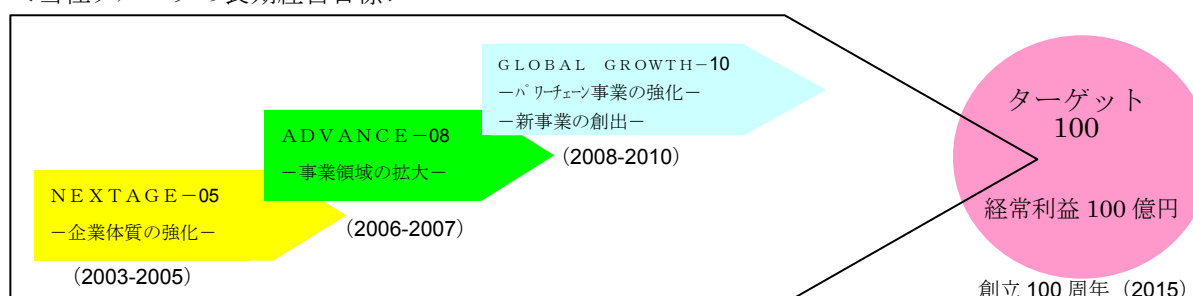
2. 新中期経営計画「GLOBAL GROWTH-10」の概要

当社は現中期経営計画「ADVANCE-08」においては、8つのコア事業を「パワーチェーン事業」と位置付け、積極的な設備投資を実施し、マーケットで力を持つ事業に育ててまいりました。

新中期経営計画「GLOBAL GROWTH-10」におきましては、「パワーチェーン事業」を一段と拡大・強化し、当社グループの経営基盤を充実させるとともに、さらに当社グループを飛躍的に発展させるため、「新事業の創出」と「海外展開の拡充」に取り組んでまいります。

※パワーチェーン事業：エピクロルヒドリン、アリルエーテル、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂
 キラル、シリカゲル、金属電極、カブラス（省エネタイヤ用改質剤）

<当社グループの長期経営目標>



「GLOBAL GROWTH-10」では、「基盤事業」、「成長戦略事業」、「新事業」の3事業で当社グループの事業を展開してまいります。

基盤事業は、エピクロロヒドリンを「生産能力10万トン構想」に向け、新中期経営計画では「生産能力7万トン」に増設いたします。また、クロールアルカリについては、新型電解槽の導入と電解技術の向上により生産効率を高め、収益力を強化いたします。

成長戦略事業は、基盤事業の誘導品を中心に、当社グループのコア技術を生かした高付加価値の事業として展開しておりますが、今後はさらに、「機能性高分子」、「ファインケミカル」、「環境・機器」、「電子材料」の4つの成長性の高い事業領域を拡大強化してまいります。当社グループでは、成長戦略事業を中心に、海外売上高比率を25%以上とすることを目標とします。

新事業は、「有機合成」、「無機合成」、「バイオ」、「重合」、「電解」の当社グループの5つのコア技術により、次世代の収益の柱となる新パワーチェーン製品を育成してまいります。各技術のシナジー効果が発揮できる研究開発体制を構築し、成長性の高い市場において新製品の開発に取り組み、新製品売上高比率を10%以上とすることを目標とします。

また、アライアンスの活用による新事業・新技術の獲得や人材の育成にも注力いたします。

「GLOBAL GROWTH-10」においては、パワーチェーン事業の生産能力の増強、新事業の創出、コストダウン、海外拠点の拡充、アライアンス等に200億円の投資を計画しております。

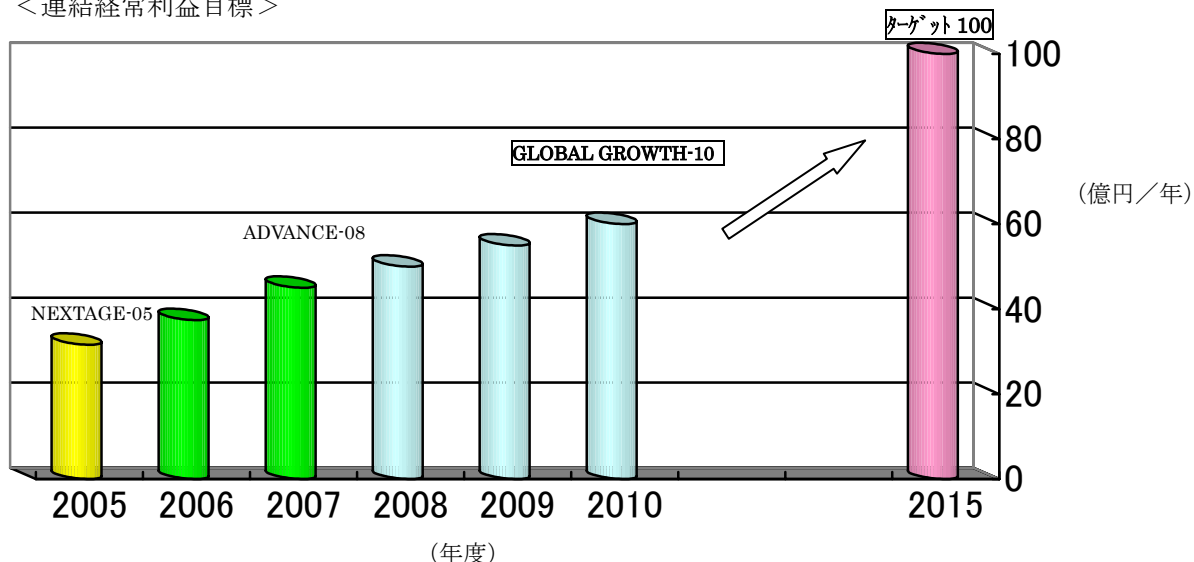
一方、CSR活動への取り組みを強化するため、環境ビジネス推進プロジェクトの立上げ等を通じて、地球環境の保全に努めてまいります。

以上の施策によって、当社グループは、2010年度に「売上高1000億円、経常利益60億円」の達成を目指します。

(1) 経営目標

	07年度見込	08年度計画	09年度計画	10年度計画	伸び率 (2007→2010)
売上高(億円)	780	850	920	1,000	28.0%
経常利益(億円)	45	50	55	60	33.3%
ROA(%)	6.1	6.2	6.6	7.0以上	—

<連結経常利益目標>



(2) 基本戦略

1) 基盤事業の強化

「クロールアルカリ」と「エピクロロヒドリン・アリルクロライド」は、塩素とエピクロロヒドリンの増産、生産コストの削減、生産体制の整備、誘導体の開発等の施策を推進し、当社グループの成長戦略事業を支え、企業体質を強化する。

2) 成長戦略事業の推進

「機能性高分子」、「ファインケミカル」、「環境・機器」、「電子材料」の4つの事業領域を当社グループの事業拡大の中核を担う成長戦略事業とし、海外市場を主軸に事業展開を積極的に推進する。

3) 新事業の創出

研究開発体制を充実し、「有機合成」、「無機合成」、「バイオ」、「重合」、「電解」の5つのコア技術の応用による新製品開発を推進する。また、アライアンスによる新事業・新技術の獲得にも着手し、新たな成長戦略事業の早期育成を促進する。

4) 海外展開の拡充

販売・生産拠点の拡大強化、国際人材の育成により、成長著しい海外市場に対応可能な体制を構築し、成長戦略事業を軸とする海外展開を推進する。

5) 人材の育成

トータル教育の推進、意識改革による技術・技能の伝承、EAP（従業員支援プログラム）による人材の活性化などの施策を通じて、当社グループの人的資源の質の向上を図る。

6) プロジェクトチーム編成による経営課題の遂行

本中期経営計画を遂行するにあたり、取り組むべき重要な経営課題について、全社横断的なプロジェクトチームを編成し、迅速かつ効率的に目的を達成する。

(3) 事業方針

1) 基盤事業

a. アリルクロライド・エピクロルヒドリン

エピクロルヒドリンは、国内外および誘導体の需要の増大に対応するため、設備増強を実施する。更にアリルクロライド・エピクロルヒドリンのグローバル展開を図るため、独自技術によるグリセリン法の早期開発を推進し、海外立地も含めた増設を検討する。

b. クロールアルカリ

クロールアルカリは、塩素誘導体の需要の増大に対応するため、コスト競争力のある塩素の増産を実施する。一方、かせいソーダの効率販売の推進によって事業収益の拡大を図る。

2) 成長戦略事業

a. 機能性高分子

- i. エピクロルヒドリンゴムは、需要の拡大が著しいBRICs市場を中心に、自動車用途での耐熱性向上要求への対応とOA用途への新グレード投入により拡販を進める。
- ii. ダップ樹脂は、世界トップメーカーとしての品質・技術力を生かし、UVインキ用途、ホットスタンピング用途の欧米・中国市場への販売を推進し、化粧板等の建材関連は、高付加価値製品の開発、生産効率の改善などの施策により収益基盤を強化する。
- iii. 感光性樹脂は、国内フレキシ印刷市場への拡販と新規用途開拓を進める。吸水性ポリマーは、介護用おむつ用途の需要拡大に対応して販売を強化する。コーティング原料は、耐候性塗料・水系塗料・紫外線硬化型塗料などの高機能分野に注力する。

b. ファインケミカル

- i. アリルエーテル類は、アリルグリシジルエーテルを中心に、欧米、中国市場でのエポキシ系シランカップリング剤用途の需要拡大に対応して、生産能力の増強、海外販売体制の強化を推進する。
- ii. シリカゲルは、バイオ医薬品市場へ新製品の投入を図るとともに、技術サービス機能と海外販売体制の強化に取り組み、世界シェアの拡大を目指す。
- iii. キラル化合物は、新規高性能触媒によって製造コストを削減するとともに、提案型営業の推進と海外販売体制の強化により、獲得案件の早期製品化を目指す。

c. 環境・機器

- i. 金属電極は、コスト競争力と品質の強化、高付加価値製品を中心とした製品展開により北米・アジア市場への販売拡大を図るとともに、アライアンスの活用により生産・販路の拡大と川下製品への展開を推進する。
- ii. カブラス（省エネタイヤ用改質剤）は、日本・アジア市場の省エネタイヤ用途の急速な成長に対応し、生産・販売体制を強化し拡販するとともに、高付加価値のコンパウンド事業を展開し収益体質の強化を図る。

- iii. エンジニアリング部門は、海水電解設備に注力して得意分野である電解事業設備の販売を促進する。また、上下水道、温浴施設の滅菌用途向けに次亜塩素酸ソーダ、二酸化塩素のオンサイト発生装置を拡販する。
- iv. 蛍光管リサイクル事業は、循環型社会の進展により、今後の需要の拡大が期待できるため、処理能力を拡大する。また、特殊な種類の蛍光管に対応した処理技術の開発にも取り組む。

d. 電子材料

- i. 電解めっきシステムおよび銅箔関連装置等の、当社の不溶性電極技術・めっき技術を応用した回路基板製造装置を、台湾・韓国を中心としたアジア市場へ拡販する。
- ii. LCDパネル用カラーフィルターレジスト、タッチパネル用フィルム、拡散フィルムは、情報電子材料の需要の増大に対応し、中国、台湾での販売体制を強化するとともに、低温での保管が可能な危険物倉庫の設置等の海外物流拠点の構築を進める。

3) 新事業

a. 新規キラル

新規高性能キラル触媒を活用し、医薬中間体分野で多様化するニーズに対し迅速に対応するとともに、新規エポキシ化合物やアミン誘導体などを活用し、医薬品以外の分野への展開も積極的に進める。

b. バイオプラスチック向け改質剤

バイオプラスチックの耐熱性、加工性を飛躍的に向上させる改質剤を、安価なバイオマス原料を用いて低コストに製造する技術を開発した。今後、早期の事業化に向けて量産化を加速する。

c. ナノハイブリッド微粒子

ナノハイブリッド技術を用いた新規な微粒子製造技術を早期に開発し、多方面での用途開拓を推進する。

d. 新規電子材料

キラル事業で培った高度な有機合成技術とカラムクロマト用シリカゲル開発で培った分離・精製技術の組み合わせにより、ディスプレイや回路基板等のIT関連素材の開発を推進する。

e. 機能性食品素材

主力製品のβグルカンの拡販を強力に推進するとともに、バイオ技術の応用により、健康食品・化粧品分野で新規開発素材による新規事業を拡大する。

(4) 中計行動指針『POWER』

P =	<u><i>P a s s i o n</i></u>	情熱をもって目標に挑戦する。
O =	<u><i>O r i g i n a l i t y</i></u>	独創性のある新規事業を育成する。
W =	<u><i>W o r l d w i d e</i></u>	海外展開による事業拡大を推進する。
E =	<u><i>E c o l o g y</i></u>	地球環境の保全に取り組む。
R =	<u><i>R e v o l u t i o n</i></u>	事業構造の革新を行なう。

以上